

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 研究課題  | 瑜伽論声聞地における修行階梯とその展開         |
| 研究代表者 | 長島 潤道<br>(仏教学部 仏教学科 特任専任講師) |

## 1. 研究目的

インドでは仏教がほぼ滅亡し伝承が途絶えたため、その実践内容や周辺地域への影響等のすべてが明らかになったとは言いがたい。そこで、本研究では以下の2点を目的とした。

(1) 修行の階梯を詳述する『瑜伽論声聞地』の文献学的研究を通じたインド仏教(声聞乗)の修行体系の明確化(基礎的研究): 大正大学における『声聞地』の研究は、チベット語訳・漢訳との対照による梵本写本の校訂を続けてきた。基礎資料の蓄積という点では既に多くの業績を挙げている。ただし、その過程で、文献学的研究における問題点が明らかになったが、未解決のままの残された点があると言わざるを得ない。そこでまず、この文献学上の課題の解明を行い、声聞乗の修行体系の明確化をはかる。

(2) インド仏教(声聞乗)の修行体系とチベット・中国・日本における実践等との比較(発展的研究): 他の修行体系との比較を行い、文字資料のみでは把握できない声聞乗の実践内容について、複合的な視点から解明する。具体的には、①大乘の修行体系との相違(チベット・中国・日本等への伝播)の明確化と②『声聞地』以外の文献および絵画等との関連の解明の2点が挙げられる。

このように、基礎資料を用いて、インド仏教の修行体系を明確にするとともに、声聞乗から大乘、インドから他地域への展開を考証する。修行体系、実践内容に注目することは、教理的側面に偏りがちであった従来の研究に新たな視点を提供することを目指す。

また、本研究では金剛大 schools と共同でシンポジウムを主催し、国際研究というかたちをとり、研究対象・方法ともに領域横断的・学際的となるよう協力者・発表者の選定を図った。特に、ワークショップにおいては、当該研究に関わる研究者(若手研究者も含む)を招き、より広い視野で上記した研究目的に取り組むとともに、これまでの研究成果をもとに、当該研究の問題点について討議し、解決を目指した。このように、本研究の副次的な目的として、小さくは本学の国際競争力の向上、大きくは文部科学省および日本学術振興会の提示する人文学の課題のひとつである古典分野における若手研究者の育成に貢献することも視野に入れている。

## 2. 研究方法

大正大学の声聞地校訂テキストを主資料に据え、研究目的に準じて本研究の研究項目を(1)基礎的研究 ①資料作成 ②写本研究 (2)発展的研究 ①修行体系の研究 ②『声聞地』以外の資料との関連の研究とし、各分担者が資料を作成するとともに、研究会を開き研究発表を行って内容を検討した。また、各項目を専門とする国内・海外の研究者に協力を依頼し、ワークショップを開催して、これまでの当該分野全体の研究成果を再検討し、集約した。

(1) 基礎的研究では、①資料作成として、『声聞地』チベット語校訂テキストの作成、及び『声聞

地』サンスクリット語写本および『瑜伽論声聞地第一瑜伽処』『瑜伽論声聞地第二瑜伽処』等の資料のデジタル化を行った。②写本研究として研究会を開き、写本校訂の問題点について検討した。

(2) **発展的研究**では、①修行体系の研究において、『声聞地』第三瑜伽処の科文を作成し、修行階梯の明確化を図った。さらに、ワークショップにおいて各分野を専門とする国内・海外の研究者を招待し、①修行体系の研究、及び②『声聞地』以外の関連分野の研究についての発表と問題解決へ向けてのディスカッションを行った。

### 3. 研究成果と公表

#### (1) 資料作成など基礎的作業に関わる成果

大正大学における『声聞地』の研究は、本学で36年にわたり継続しており、研究に必要な梵本写本、比較研究を行うための漢訳・チベット語訳資料等はほぼ完全に揃っているが、梵本写本の影印版は既に絶版となっており、学内分担者以外の入手は困難である。そこで、本研究の研究目的(1) **基礎的研究**では、①資料作成として、国内外の大学、専門の研究者による資料の活用を可能にするため、『声聞地』写本と『瑜伽論声聞地第一瑜伽処』『瑜伽論声聞地第二瑜伽処』のデジタル化を行った。一方で、チベット語テキストについては、計画書において既に明示されていたとおり、『声聞地』全体の校訂を終了することはできなかったが、第三瑜伽処の約半分を校訂し終えた。チベット語テキストは校訂が終了次第、総合佛教研究所ホームページで順次公開予定である。

研究目的(2) **発展的研究**の①修行体系の研究において、『声聞地』第三瑜伽処のサンスクリット写本の校訂に基づき、科文を作成し修行階梯を明らかにした。第三瑜伽処には止・観についての記述があり、修行体系の解明にとっては極めて重要な章である。この科文はまもなく出版される『瑜伽論声聞地第三瑜伽処』に掲載予定である。

#### (2) 国際ワークショップ開催

さらに、本研究では、平成28年5月28日に The Śrāvakabhūmi and Buddhist Manuscripts (声聞地と仏教写本) と題するワークショップを開催した。これは2015年8月20～21日に韓国金剛大學校仏教学研究so所によって主催されたシンポジウムを引き継ぎ、発展させたものである。本研究のテーマに関連する分野を専門とする国内・海外の研究者を招待し、研究目的(1) **基礎的研究**の②写本研究(松本恒爾:大正大学総合佛教研究所研究員、スダン・シャキヤ:種智院大学准教授、加納和雄:高野山大学准教授)と、研究目的(2) **発展的研究**の①修行体系の研究(Robert Kritzer:京都ノートルダム女子大学教授)、及び②『声聞地』以外の関連分野の研究(荒牧典俊:京都大学名誉教授、山部能宣:早稲田大学教授、Daniel Stuart: Assistant Professor, The University of South Carolina) についての発表と問題の検討を行った。

#### (3) 研究論文集の出版と配布

本研究の成果は、ワークショップ発表者を中心とした当該分野の研究者による11本の論文を収録した論文集という形で、平成29年3月に *The Śrāvakabhūmi and Buddhist Manuscripts* と

して出版された。寄稿者と論文のタイトルは以下の通りである。

NOBUYOSHI YAMABE

On *bi-jāśraya*: Successive Causality and Simultaneous Causality

ROBERT KRITZER

*Aśubhabhāvanā* in *Vibhāṣā* and *Śrāvakabhūmi*

TAKAKO ABE

*Śamatha* and *Vipaśyanā* in the *Śrāvakabhūmi*: Comparisons between Yogasthānas II and III

CHANGHWAN PARK

Śrāvakayānists, Yaugacārabhūmikas, Sautrāntikas on the Notion of *Ṣaḍāyatanaviśeṣa* as *Bīja*

KAZUHIRO ISHIDA

On the *Śrāvakabhūmi*, Early Abhidharma, and Gandhāra Buddhism

DANIEL M. STUART

Unmanifest Perceptions: Mind-matter Interdependence and Its Consequences in Buddhist Thought and Practice

JUNDO NAGASHIMA

The Sanskrit Manuscript of the *Śrāvakabhūmi* in Comparison with the Chinese and Tibetan Translations

KAZUO KANO

Some Remarks of the Sanskrit Titles of Sthiramati' s Works

YOUNGJIN LEE

On Two Sanskrit Manuscripts of Ārya-Vimuktisena' s Commentary on the *Abhisamayālaṅkāra*

SHAKYA SUDAN

The Manuscript-culture in the Nepalese Buddhism

SANGYEOB CHA

The Role and Significance of the Tibetan Elephant-Taming Illustration

本書の論文は、大別して、基礎的研究となる写本を扱ったもの、これまでの『声聞地』の修行体系に関するもの、また、関連するアビダルマ文献や『瑜伽論』の思想と修行体系を論じたもの、チベット、中国など、インド以外の地域への広まりに言及したものに分けられる。これは、研究計画の時点で目的としていた項目のほぼ全てを含むことができたと言える。また、全て英語論文としたことにより、海外に於ける周知も望まれる。本書は 400 部印刷され、100 部を出版社による販売用とし、研究助成金の審査規定に則り、国内外での成果の積極的な公表をするために 150 部を国内、150 部を海外の研究者、研究機関への配布とした。(成果の積極的な公表、普及に努めることが主要な助成金研究課題の評価の対象となるとされているにもかかわらず、本書の発送費用のほとんどが研究助成金の趣旨に反すると判断され、執行されなかったことは誠に遺憾である。予算執行に関する規定の明確化が切に望まれる。)

#### (4) 課題と展望

今後の課題としては、『声聞地』の第四瑜伽処後半部分の写本の校訂が残されており、第四瑜伽処全体の和訳研究とともに、順次進めていく予定である。第四瑜伽処には第三瑜伽処より高次の修行段階について記述されており、当該箇所の研究により、仏教の修行体系の研究がさらに深まることが期待される。